

ザ・クインテッセンス／2011. 11月号

○インプラント治療における咬合のリスクマネジメント

咬合のSAC分類に基づいた機械的トラブルの回避 (米澤大地)

*インプラント治療の普及に伴い、一定の割合でトラブルが起きている現実がある。細菌感染による生物学的なトラブルは深刻であるが、機械的トラブルの頻度が高い。筆者は、インプラント補綴での機械的トラブルを回避するため、症例をシンプル(S)、アドバンス(A)、コンプレックス(C)に分け、治療計画を立案している。症例の難易度を分類することで、治療介入を最小限にしたうえで長期安定が得られるばかりではなく、咬合再構成の必要なケースでは全顎的な処置が必要であると判断できるメリットがある。6 ケースを分類別に例示して具体的な治療内容と注意点を解説している。

○ブラキシズムコントロールを主体とした総合的な力のコントロール法 (永田和裕)

*歯科治療を行った後に、何十年も良好な口腔内の状態を維持している患者がいる一方で、十分な管理を行っているにもかかわらず、次々に残存歯や補綴物のトラブルが継発し、歯根の破折等で残存歯が喪失していく患者がいる。このような口腔内の障害の発生に過剰あるいは不正な力が関与していることは誰もが認識していることであろう。本稿では、力のコントロールはなぜ必要か？過剰・不正な力による障害は？ブラキシズムとは？ブラキシズムコントロールの手法としてのアクティブコントロールなどをわかりやすく解説している。今月号はその前編である。

日本歯科評論／2011. 11月号

○特集 続 う蝕治療を見直す ―接着修復の視点から― (福島正義 他)

*3月号の続編です。3月号は歯髄保護からう蝕治療を見直しましたが、本号では接着修復の視点より解説しています。歯髄温存療法、CR 充填、セラミックインレーなど歯髄、歯質を守り MI 治療を可能とする接着修復について詳しく紹介してあります。日常の臨床にすぐ取り入れられるものばかりです。

○まずはパーシャルデンチャーを得意になろう！ ―クラスプデンチャーを中心に―

第11回 III. 装着後に起きる問題

3. 義歯の破折と装着後のトラブル (若林則幸)

*パーシャルデンチャーの破折などのトラブルは日常の臨床においてよく遭遇するものです。新製直後に起こったり、修理直後にまた起こるトラブルは未然に防ぎたいものです。トラブルが起こった原因からそれをどう防ぐかなど詳しく解説しています。

デンタルダイヤモンド／2011. 11月号

○実践歯学ライブラリー 咬合調整は診断時からすでに始まっている

“歯”単位の調整と“顎”単位の調整 (山影俊一)

*筆者は咬合調整には、歯のみに対して行うものと顎口腔系システム全体に対して行うものの2通りあり、治療をスタートする時点で明確に区別することが大切だと強調している。本稿では、咬合再構成治療の対象となるケースで、スラプライゼーションプリントを使用して、下顎を中心位に導き、その位置で最終補綴物を作製する手順を詳しく述べている。この中で、スプリントの咬合調整の方法、スプリントの顎位を咬合器上に再現し、プロビジョナルレストレーションに再現する方法、アンテリアーガイダンスの誘導路を決定する方法、最終補綴物に置き換える方法など興味深い内容である。

○ナソロジーの咬合理論が顎関節症に効果のない理由

かみ癖の視点から明らかにする (石幡伸雄)

*顎関節症は、過去にいくつかの咬合論に依拠して大規模補綴などが行われたにもかかわらず、良好な効果が得られないことから、近年あまり積極的な咬合治療は行われていないのが、現状である。一般には、大規模補綴を日常臨床で行う場合、ナソロジーの咬合理論の中心位を用いるが、顎関節症を伴う場合には、対処できないとされている。筆者は、中心位を顎関節症の咬合位に用いない理由を検証し、使い慣れたナソロジーの中心位の考え方を基盤とした顎関節症への対処法を明らかにしている。

歯界展望／2011. 11月号

○特別企画 歯周病に対する抗菌療法は本当に有効か

- ・ 歯周病における抗菌療法の考え方 (王 宝禮)
- ・ 臨床家からみた歯周治療に適した抗菌療法とは (五味一博)
- ・ 臨床における抗菌療法の実際 (三辺正人・河野寛二)

*歯周治療における経口抗菌療法は、特に侵襲性歯周炎や重度慢性歯周炎患者の深いポケット(PD:6mm以上)に対して、臨床的改善効果が期待できるとしている。しかし、臨床の現場では必ずしも科学的根拠に基づいて行われていないのが現状である。そこで日本歯周病学会は「歯周病患者における抗菌療法の指針 2010」を作成し、どのような考えや科学的根拠に基づいて、どのように抗菌療法を行った場合に効果的であるかについての情報を提供している。本論文は、この指針の作成に係った先生方の解説である。